荒廃農地を解消し、特産品「結崎ネブカ」を推進

川西町農業委員会

1.川西町の農業の概要

川西町は、大和平野の中央部に位置し、東は天理市、南は三宅町、西は河合町、北は安堵町及び大和郡山市と接しています。川西町総面積594haのうち耕地面積は234haで、水田が203ha、畑が31haとなっており、稲作を中心とした農業が行われています。

農業形態としてはほとんどが兼業農家であり、農業の担い手不足や生産者の高齢化が進んでいます。認定農業者の増加や新規参入者、農業法人の新規参入、集落営農組織の設立などが、今後の地域農業の活性化に向けて期待されます。

また、「大和伝統野菜17種」の一つに認定された地域特産品「結崎ネブカ」のブランド化、高付加価値化を進め、産地育成に努めています。

結崎ネブカイメージキャラクター「ネッピー」

結崎ネブカ

2.農業委員会の取り組み

①具体的な取り組み内容

荒廃農地を解消し農地の有効活用を促進するため、農地パトロールを定期的に実施し、担い手への集積や地域特産品を作付けするなど再生事業への積極的な取り組みを行っています。その成果もあり、ここ数年では荒廃農地面積は減少しています。

また、再生した農地で川西町の幼稚園児・保育園児が畑作物の作付け・収穫を行い、給食の食材として調理するなど、食育にも貢献しています。

荒廃農地（再生前）

荒廃農地（再生後）

ジャガイモ体験（植付・収穫・給食）

結崎ネブカ体験（植付・収穫・給食）

②取り組みに当たっての課題と対応方策

農業の担い手不足や生産者の高齢化により、今後、荒廃農地が増加する恐れがあります。川西町では、地域特産品「結崎ネブカ」が生産部会員により生産されていますので、生産量・面積を拡大していくためにも、荒廃農地の解消と関連づけた取り組みが必要ではないかと考えています。

会議

農地パトロール

集合写真